

山形県感染症発生情報

第4週(平成21年1月19日～平成21年1月25日)

疾患名	報告数	増減	特記事項
(小児科定点 30)			
RSウイルス感染症	3		
咽頭結膜熱	12	△	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	102	▽	多発中
感染性胃腸炎	467	▲	多発中
水痘	105	△	多発中
手足口病	1	▼	
伝染性紅斑	6	▲	
突発性発しん	15	▽	
百日咳	0		
ヘルパンギーナ	0		
流行性耳下腺炎	16		
(インフルエンザ定点 48)			
インフルエンザ	2071	▲	多発中
(眼科定点 8)			
急性出血性結膜炎	0		
流行性角結膜炎	1	▽	
(基幹定点 10)			
クラミジア肺炎	0		
細菌性髄膜炎	0		
マイコプラズマ肺炎	2	△	
無菌性髄膜炎	0		

(▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少、多発中:報告数50名以上)

疾患名	報告数			累積報告数 *2009年1月から	
	第4週	1週前	2週前		
2類感染症	結核	4	4	7	16
3類感染症	コレラ	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	6
	パラチフス	0	0	0	0
4.5類感染症	E型肝炎	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0
	アメーバ赤痢	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0
	急性脳炎	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0
	ジアルジア症	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0
麻しん	0	0	0	0	

1 インフルエンザは、置賜地区、村山地区、庄内地区で著しく増加しており、県全体の報告数は2,071名で前週比約1.8倍となった。最上地区では、わずかながら減少している。1週間の報告で2,000名を超えたのは、大流行した2005年以来であり、警戒が必要である。1月20日～26日、県内49施設から集団発生の情報が寄せられている。迅速キットによる陽性例では、各地区ともにA型が多く検出されている。山形県衛生研究所での分離状況(1月以降に採取した検体)はAノ連型が大半を占めるが、山形市内からB型、庄内地区からA香港型も分離されている。ワクチンの接種や手洗い、うがいの励行、マスクの着用など予防対策が重要である。

2 感染性胃腸炎は、最上地区では減少したが、その他の地区では増加しており、県全体の報告数は3週連続で増加している。特に鶴岡市と山形市の定点当たり報告数が多い。県は1月10日から1ヶ月間ノロウイルス食中毒注意報を発令している。ヒトからヒトへの感染力が強いため、感染者の嘔吐物や便の処理には十分注意するとともに、手洗いの徹底が重要。

3 水痘は、置賜地区、庄内地区で増加している。患者は、1～4歳が中心。

5 結核は、患者が村山地区から2名(東南村山2)、庄内地区から1名(飽海1)、疑似症患者が庄内地区から1名(田川1)報告された。また第3週分に、庄内地区から無症状病原体保有者1名(田川1)が追加報告された。(1月27日現在 山形県衛生研究所)